

内閣総理大臣表彰 受賞 平成29年度緑化推進運動功労者

奈良・人と自然の会 会長 鈴木 末一

当会が緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰を受け、受賞式に出席したので、その模様をご報告し、この賞の重みを関係の皆様と共有したい。

受賞式は第11回みどりの式典として行われた。その式典に出席するべく、4月28日（金）正午前、東京駅18番ホームに降り立った。ゴールデンウィークの直前ではあったが、人出はまださほどではなかった。山手線有楽町駅経由でメトロに乗り換え永田町へと向かう。

地上に出た瞬間、国会議事堂周辺を含めて、物々しい警備体制である。憲政記念館へのルートを確認し、記念館へと向かう。一步一步近づいていくにつれ、緊張感が高まってくる。会場正面受付で、環境省大臣官房秘書課の萩原辰男課長補佐が待ち受けてくれた。厳重な持ち物チェックの後、ロビーで式典の概要についての説明を受け、式典会場へと案内される。

関係者が揃ったところで、予定時刻の少し前から、式典の流れの説明があり、立ち居振る舞いについてのリハーサルが繰り返されていく。演壇中央には両陛下が着席される椅子、両サイド向かって右側に4脚、左側に5脚の椅子が置かれている。どなたがお座りになるのかは、まだ判らない。

一通りのリハーサルが終わり、式典が始まるまでの間、東京芸術大学の4人の先生方による弦楽クアルテット演奏が行われる。優しい、静かな調べが流れ、緊張感もややほぐれていく。

午後4時丁度、開式の辞があり、先ず両陛下が入場され、続いて三権の長、そして、内閣官房長官、最後に文部科学、農林水産、国土交通、環境各大臣が着席される。事前に色々調べてはいたが、これ程の方々が臨席された式典は、今までにはなかったように思う。

私たち受賞者の席は、演壇に最も近い最前列であり、その中で、私は皇后陛下の前の席である。

国歌斉唱、安倍首相の祝辞を官房長官が代読、選考委員長から「みどりの学術賞」選考経過の発表に引き続き、官房長官から2人の大学教授の方々に「みどりの学術賞」の授与があり、その後、緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰が行われ、受賞者を代表して、長野県長野市の神戸直日（ごうどなおひ）氏に表彰状が授与される。

最後に、受賞者を代表して、丸田頼一千葉大学名誉教授から御礼のご挨拶があり、滞りなく式典は終了した。

記念写真のための会場準備が整った頃、前列中央に官房長官、お隣に大学教授、そしてその両サイドに三権の長と各大臣が着席される。後列に緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰受賞者が並び、記念写真の撮影が行われる。代表撮影である。

随行者などの関係者は、記念写真の撮影前にレセプション会場へと移動。その後、写真撮影を終えた受賞者全

員が合流し、午後5時に、両陛下をお迎えしてレセプションが始まる。

山本農林水産大臣の発声で乾杯。お言葉を交わそうと両陛下の前に列ができる。萩原氏の計らいで、先に官房長官、三権の長、各大臣の方々にお礼のご挨拶を兼ねて当会のご説明をする。そして、小林環境事務次官と亀澤自然環境局長のご紹介を受け、受賞に対する深甚なる謝意を申し上げる。

その時、柳野国土交通省大臣官房審議官がお越しになり、祝福のお言葉をいただく。審議官には緑の都市賞受賞の時に随分お世話になっている。また、古都保存法シンポジウムの時、京都嵐山でお会いしたこともあり、当会のことについては、ご認識いただいている。

頃合いを見計らって、いよいよ天皇陛下の前へと進む。当会の活動内容をご説明すると、特にご関心を持たれたのは、「まほろばマツタケ」のことである。「一日も早く復活できるといいですね。頑張ってください」とのお言葉をいただいた。

午後6時、両陛下をお見送りした後も暫くレセプションは続いたが、ほどなく閉宴となる。

なにかと心遣いいただいた萩原課長補佐と柳野審議官に感謝の意を伝え、会場を後にした。

栄えある式典に参列の機会を与えて下さった関係の皆様、衷心よりお礼申し上げます。

「みどりの式典」は、「みどりの日」についての国民の関心と理解を一層促進し、「みどり」についての造詣を深めるため、みどりの月間中に毎年開催され、今年は11回目を迎えた。

式典で、みどりの学術賞の授与及び緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰が行われている。緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰は、緑化推進運動の実施について顕著な功績のあった個人又は団体を称えるもので、今年が





管内閣官房長官と歓談(レセプション)

が受賞されて以来である。

この上ない名誉

阿部 和生(自5)

事前に「両陛下がご臨席」と、聞いていたが、衆参両院議長、最高裁判所長官、内閣官房長官、管轄四大臣が列席され、格式の高い方々の祝福の中での授与式でした。国歌斉唱では思わず声を張り上げていた。官房長官代読の総理大臣祝辞は「みどりの力」を話されていたと思うが、すっかりその場の雰囲気呑まれきっていたのか内容を覚えていない。来賓各位が、正面に掲げられた国旗に拝礼されて着席される姿に、国家を背負い、動かしている方々の深い思いを感じた。その後のレセプションでは、テレビでしかお目に掛からない方々に、親しくお話をさせていただく機会を得て、この上ない名誉な時間を過ごすことができた。

両陛下は自然な振る舞いの中、丁寧な対応をなされて

34 回目となる。

奈良県関係の受賞は、平成 21 年に稲刈棚田ルネッサンス実行委員会(高市郡明日香村)

いて、レセプションでは時間がオーバーしたのではと思う。

平城遷都 1300 年記念の育樹祭とは、格段に違った大変な名誉を頂いたと痛感し、心引き締まる思いの一刻でした。会員の皆様は、(たゆ)まぬ活動が評価され、素晴らしい結果に繋がったことに感謝です。

仲間と育んだ夢を胸に

古川 祐司(シ9)

薫風の中、国会議事堂周辺の緑がまぶしく美しい。春の叙勲に先駆けて開催された「みどりの式典」に栄える受賞団体の一員として参列させていただいた。

創立 15 周年、ならやまの保全活動開始から 10 年の節目にこの上ない贈り物である。会の活動に参加する人数は当初の 5 倍以上、今なお増え続ける。その原動力は何だろう。

我々には、残された時間では追いきれない夢があり、ひたすら明日へ繋ごうと汗を流してきた同志の思いがある。今回の受賞にあたり、その意義を噛みしめ、「継続こそ力なり」をあらためて確信する。

厳粛な授賞式が終わると、レセプションは一転して和やかな雰囲気となる。平素、国の要人として拝見する顔とは打って変わり、「みどりの式典スマイル」の大臣とで和やかな懇談となる。

天皇陛下から励ましのお言葉を賜り、各大臣から労いと祝福を頂いて、我がボランティア人生最良の一日となった。

水辺環境調査会からのお知らせ！ 当会出版の第 4 次大阪府メダカ調査 報告書に関する記事が読売新聞に掲載されました！

林 美正(自1)

水辺環境調査会では、皆様のご協力を得て、1999 年以來大阪府下のメダカ生息調査を継続的・網羅的に実施してきました。この度、メダカ遺伝子解析技術を持つ大阪府立大学大学院生命環境科学研究科との協働調査研究による

(読売新聞夕刊 2017.04.22)

メダカの主な遺伝子型分布	
大阪の在来種以外のメダカ分布	
河川(17か所)	9か所16匹
公園池(10か所)	5か所11匹
水路(13か所)	3か所8匹
農業用ため池(14か所)	1か所1匹
水田(1か所)	0か所0匹
計55か所	18か所で36匹

メダカは、水質悪化などもあり、環境省のレッドリストで絶滅危惧2類(絶滅)と指定されている。メダカは、水質悪化などもあり、環境省のレッドリストで絶滅危惧2類(絶滅)と指定されている。メダカは、水質悪化などもあり、環境省のレッドリストで絶滅危惧2類(絶滅)と指定されている。

メダカの学校は...「転校生」困ります

「遺伝子汚染」3割に拡大 養殖放流原因か

メダカの種別は、北日本と南日本の集団に大別でき、南日本集団には遺伝子のタイプがある。

近年、在来種が別の地域のメダカと交雑する「遺伝子汚染」と呼ばれる状態が

大阪・北摂地域の公園池で確認された黄色い腹を用メダカ(左)と通常のメダカ(右)と遺伝子型が異なるメダカが増えている(林美正提供)

各地で増えている。チームは2010〜16年、府内はほぼ全域の河川や農業用ため池、水路、公園池など55か所で計242匹を採集し、遺伝子を解析した。

その結果、調査地点の約3分の1に当たる18か所で、大阪在来種以外のメダカ3匹を確認。河川(17か所中9か所)で16匹、公園池(10か所中5か所)で11匹

の危険が増大)に指定されている。養殖大の北川啓生准教授(保全遺伝子)は「日本各地のメダカは長い時間をかけて環境に適応してきたが、『遺伝子汚染』は、環境への適応度を一気に弱めてしまう。大阪以外でも、遺伝子の放流はあるが、地域のメダカの絶滅につながる行為と見なす」と話す。